

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平3-5858

⑬ Int.Cl.⁵

G 06 F 13/00

識別記号

3 5 1 E

庁内整理番号

7459-5B

⑭ 公開 平成3年(1991)1月11日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑮ 発明の名称 バッチ伝送方式

⑯ 特 願 平1-140367

⑰ 出 願 平1(1989)6月1日

⑱ 発 明 者 河 崎 正 夫 大阪府大阪市東区城見1丁目4番24号 関西日本電気ソフトウェア株式会社内

⑲ 出 願 人 関西日本電気ソフトウェア株式会社 大阪府大阪市東区城見1丁目4番24号

⑳ 代 理 人 弁理士 内 原 晋

明 細 書

発明の名称

バッチ伝送方式

特許請求の範囲

データ量の多いディスクファイルを回線を使用してバッチ伝送するバッチ伝送方式において、伝送対象ファイルのレコードを複数レコードにまとめて一電文とすることを特徴とするバッチ伝送方式。

発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、回線を使用してバッチ伝送する業務システム、特にデータ量の多いディスクファイルの処理時間を重視するバッチ伝送方式に関するものである。

〔従来の技術〕

従来、この種のバッチ伝送方式は伝送対象ファ

イルの管理情報により単一レコード毎に回線開設・閉設動作を行うため、データ量が多い業務システムでは処理時間が増大していた。

〔発明が解決しようとする課題〕

上述した従来のバッチ伝送方式は、伝送対象ファイルのファイル管理情報により単一レコード毎に回線の開設・閉設動作が行なわれるので、回線の開設・閉設に要する合計時間は、データ量の多い伝送対象ファイル程増大し、業務システム全体の処理時間が増大する欠点がある。また、伝送対象ファイルのレコード長が短い程、データ伝送時間に対する回線の開設・閉設時間の割合が高くなる欠点がある。

〔課題を解決するための手段〕

本発明のバッチ伝送方式は、伝送対象ファイルのレコードを複数レコードにまとめて一電文とする手段と、伝送対象ファイルの管理情報をもとに自動的に一電文の格納データ件数を決定する手段を備え、回線の開設・閉設時間を極力減少させる様な構成を有している。

〔実施例〕

次に、本発明について図面を参照して説明する。

第1図は本発明の一実施例の構成・動作を説明する図である。

図中、1は伝送対象ディスクファイル、2は伝送対象レコード、3はファイル管理情報ファイル、4はファイル管理レコード、5は一電文内の格納データ件数自動計算手段、6は伝送レコード、7は業務プログラムからの開始要求の中身を夫々表わす。

業務プログラム7より開始要求が出されると、ファイル管理情報ファイル3のファイル管理レコード4のファイル名、レコード長を識別し、伝送対象ファイル1より伝送対象レコード2を一電文内の格納データ件数の自動計算手段5により計算されたデータ件数分入力し伝送レコード6として格納後回線を通してバッチ伝送を行なう。

〔発明の効果〕

以上説明したように本発明は、データ量の多い

ディスクファイルを回線を使用してバッチ伝送するバッチ伝送方式において、伝送対象ファイルのレコードを複数レコードにまとめて一電文とすることにより、データ伝送する際の回線の開設・閉設動作を極力減少させ、処理時間の短縮をはかれる効果がある。

図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の構成・動作を説明するブロック図である。

1…伝送対象ディスクファイル、2…伝送対象レコード、3…ファイル管理情報ファイル、4…ファイル管理レコード、5…一電文内の格納データ件数自動計算手段、6…伝送レコード、7…業務プログラムからの開始要求。

代理人 弁理士 内 原 智

